



shaping tomorrow with you

SPARC M12/M10 Plug-In for Oracle Enterprise Manager Cloud Control リリースノート

2019年 3月

2.2版

富士通株式会社

●使用条件

- 著作権・商標権・その他の知的財産権について

コンテンツ(文書・画像・音声等)は、著作権・商標権・その他の知的財産権で保護されています。

本コンテンツは、個人的に使用する範囲でプリントアウトまたはダウンロードできます。ただし、これ以外の利用(ご自分のページへの再利用や他のサーバへのアップロード等)については、当社または権利者の許諾が必要となります。

- 保証の制限

本コンテンツについて、当社は、その正確性、商品性、ご利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、そのご利用により生じた損害について、当社は法律上のいかなる責任も負いかねます。本コンテンツは、予告なく変更・廃止されることがあります。

● 輸出管理規制について

- 本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

● 高度な安全性が要求される用途への使用について

- 本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常産業等の一般的な用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

● 商標

- UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。
- SPARC Enterprise、SPARC64、SPARC64 ロゴ、およびすべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

目次

1. はじめに.....	1
2. 新着情報.....	2
3. 機能概要.....	2
4. 既知の問題と回避策.....	3

1. はじめに

本書の内容

- 本書は SPARC M12/M10 Plug-In for Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13.2.1.0.0 の新機能、既知の問題およびその回避策を記載した資料です。
- 本資料は、Oracle Enterprise Manager Cloud Control(以下、EMCC)および SPARC M12/M10 の基本知識を有するシステム管理者を対象としています。EMCC に関する詳細については、以下の URL を参照ください。
<http://docs.oracle.com/en/enterprise-manager/>
- SPARC M12/M10 Plug-In for EMCC は以下のサーバをサポートします。
 - SPARC M12
 - SPARC M10

留意事項

- 本書では、Oracle Solaris を Solaris と記載することがあります。また、Oracle VM Server for SPARC を Oracle VM または OVM と記載することがあります。

2. 新着情報

2019年3月

- Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c Release 3に対応しました。

2018年11月

- Oracle Solaris 11.4に対応しました。

2018年3月

- Adobe Flash Player なしで画面表示できるよう対応しました。
- 日本語表示に対応しました。

2017年7月

- SNMP v3トラップ受信に対応しました。

2017年4月

- SPARC M12 および SPARC M10 のハードウェア監視機能を提供します。

3. 機能概要

- SPARC M12 および SPARC M10 のハードウェアの情報を表示。



システム・インフラストラクチャ・サーバー-XSCF

ページ・リフレッシュ 2018/02/14 10:10:38 JST

ASU/USP1.gsm.com fujitsu.com

オープン・インシデント

クリティカル: 0

警告: 0

IP: 10.24.198.37 CPU: SPARC, 2.800 GHz, 16 コア

シリアル: TZ01238046 メモリー: 64 GB (8 DIMM インストール済み)

XCP FW: 2332 モデル: SPARC M10-1

状態: 良好 ロケータ: Off

電源: On

環境情報

電力使用量

CPUアクティベーション

温度: 26.12C

使用可能な電力: 1540W

未割当コア数: 0

エア・フロー: 82CMH

最大許容: 636W

割当済コア数: 12

使用電力: 213W

ボード

名前	ロール	バージョン	シリアル番号	FRU部品番号	操作のステータス
/MBU	N/A	2332h	TZ1236000Y	CA07363-D001 A0 /7060744	Normal

CPU

名前	コア数	クロック・スピード (GHz)	シリアル番号	操作のステータス
/MBU/CPU#0	16	2.800	00300620	Normal

- SNMPv3トラップまたは SNMPv1トラップによってハードウェアの故障を検知し、その情報をインシデントとしてコンソールに表示



- インシデントの対象となるトラップのタイプは scfComponentStatusEvent および scfCodViolation です。トラップのタイプの詳細は、以下の URL の各本体装置に対する「SPARC M12/M10 XSCF MIB・Trap 一覧」を参照ください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/unix/sparc/downloads/manual/index.html>
- インシデントは XSCF SNMP エージェント機能により通報されるトラップのタイプ毎に生成されます。そのため、同一タイプの複数のトラップが通報された場合、最後に通報されたトラップの情報のみがインシデントとしてインシデント・マネージャに表示されます。各トラップタイプのトラップ受信履歴は、トラップのタイプに対するインシデントを選択し、画面下部のイベントの画面で参照できます。

4. 既知の問題と回避策

既知の問題と回避策は以下の通りです。

バグ番号	emcc-0044
モデル	SPARC M12/M10
説明	警告レベルのインシデントが EMCC コンソールに表示されない場合があります。
回避策	ありません。

バグ番号	emcc-0087
モデル	SPARC M12/M10
説明	Oracle Solaris 10 上の Oracle Management Agent(以降 OMA と記載)にて XSCF を管理している場合、Disk Controller の表が表示されません。
回避策	ありません。

バグ番号	emcc-0101
モデル	SPARC M12/M10
説明	システム・インフラストラクチャ・サーバーXSCF 検出画面から、XSCF SSH 資格証明を登録できません。
回避策	システム・インフラストラクチャ・サーバーXSCF 検出画面で「追加」ボタンを選択後の遷移先であるシステム・インフラストラクチャ・サーバーXSCF モニタリング資格証明画面で XSCF SSH 資格証明を登録してください。

バグ番号	emcc-0103
モデル	SPARC M12/M10
説明	ブラウザの表示の拡大／縮小設定を 100%以外で使用した場合、システム・インフラストラクチャ・サーバーXSCF 検出画面またはシステム・インフラストラクチャ・サーバーXSCF 画面において、表示部品が重なって表示されるなど、正しく表示されない場合があります。
回避策	ありません。ブラウザの表示の拡大／縮小設定は 100%で使用してください。

バグ番号	emcc-0104
モデル	SPARC M12/M10
説明	13.1.1.1.0 以前から 13.2.1.0.0 以降にアップグレードし、かつ、ブラウザの優先言語設定が日本語の場合、SPARC M12/M10 Plug-in for EMCC 関連コンテンツの一部文字列が日本語に変換されず、英語表示のままとなる場合があります。
回避策	ありません。SPARC M12/M10 Plug-in for EMCC をアップグレード後、OMS を再起動してください。

バグ番号	emcc-0105
モデル	SPARC M12/M10
概要	システム・インフラストラクチャ・サーバー-XSCF 検出画面での入力項目に不備があった場合にポップアップで表示されるメッセージの文字列が文末で改行されず、画面の右端で折り返されて表示されません。
回避策	ありません。

バグ番号	emcc-0106
モデル	SPARC M12/M10
概要	システム・インフラストラクチャ・サーバー-XSCF 画面の表のデータが第一列の降順で表示されます。
回避策	ありません。

バグ番号	emcc-0107
モデル	SPARC M12/M10
概要	システム・インフラストラクチャ・サーバー-XSCF 画面の左上のメモリーが、"0GB (0 DIMM インストール済み)"と表示される場合があります。
回避方法	ありません。通常 1 分程度で実装メモリーの値が表示されます。

バグ番号	emcc-0108
モデル	SPARC M12/M10
概要	ブラウザの優先言語設定が日本語の場合、プラグインの OMA へのデプロイ直後に、SSH モニタリング資格証明のモニタリング資格証明の入力画面の文字列が英語表示される場合があります。
回避方法	ありません。通常 20 分程度で日本語表示されます。

バグ番号	emcc-0109
モデル	SPARC M12/M10
概要	システム・インフラストラクチャ・サーバー-XSCF の実際のインシデント数と、システム・インフラストラクチャ・サーバー-XSCF 画面のオープン・インシデントの数が一致しない場合があります。
回避方法	ありません。

バグ番号	emcc-0110
モデル	SPARC M12/M10
概要	SNMPv3 モニタリング資格証明の設定時に、以前に設定したユーザ名を指定して、モニタリング資格証明に以前と別の値(認証パスワード/許可プロトコル/プライバシ・パスワード/プライバシ・プロトコルドなど)を設定した場合、SNMPv3トラップに対するインシデントが作成されません。
回避方法	以前に設定したことがない値をユーザ名に設定してください。

バグ番号	emcc-0111
モデル	SPARC M12/M10
概要	プラグインの OMS へのデプロイまたは OMS からのアンデプロイのジョブが終了しない場合があります。そのため、デプロイまたはアンデプロイできない場合があります。
回避方法	OMS を再起動後、デプロイまたはアンデプロイを試みてください。

改版履歴

改版日時	版数	改版内容
2017.04	1.0	新規作成
2017.07	1.1	SNMP v3トラップ対応
2018.03	2.0	- Adobe Flash コンテンツから Javascript/HTML コンテンツへの移行。 - 日本語表示対応
2018.11	2.1	Oracle Solaris 11.4 対応
2019.3	2.2	Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c Release 3 対応

FUJITSU

shaping tomorrow with you